

話し合う・考える・はじめる

◎地域の安全・地域の見守り

- 子どもの登下校の安全
 - ◇登下校の見守り・青パト活動
 - ◇危険個所の確認・対策
- 高齢者の見守り
 - ◇ゆるやかな見守り
 - ◇一人暮らし高齢者訪問活動
- 災害への備え
 - ◇災害時の連携体制強化
 - ◇自主防災活動

◎交流の場・通いの場

- 高齢者の通いの場
 - ◇身近で気軽な居場所づくり
 - ◇誰でも通える場づくり
- 交流できる場
 - ◇様々な世代が交流できる事業
 - ◇子どもや若い世代に向けた事業

◎地域の担い手づくり

- お手伝いさん探し
 - ◇気軽に参加してもらえる環境
 - ◇ちょっとした手助けでもOK

☆ 地域自治協議会の活動を
知ってもらおう

- 伝える
 - ◇広報活動も積極的に
- 参加してもらおう
 - ◇参加者として活動を知ってもらおう

ほほえみつなぐまちづくり

『活気のある、安心して暮らせるまちに』

◎地域の安全・地域の見守り

○子どもの登下校の安全

地域の中では狭い道幅の所でも車の通行量が多い個所や溝などもあり、子どもの通学路として安全性に不安がある。地域の関係団体と協力を取りながら、危険個所の確認や対策を協議して取り組んでいく。これは、子どもだけでなく高齢者にとっても、安心して暮らせる街づくりに繋がると考えています。

○高齢者・介護の問題

地域には一人暮らし、老老世帯など様々な方が居られるが、災害なども含め有事が起きた時のためにも、地域の見守りと支え合いが重要性と考えています。今後、団塊の世代が後期高齢者を迎える事なども考慮しながら、地域として必要な取り組みを検討し実行していきます。

○災害時の対応

地域住民全体にかかわる問題であり、関連する各団体と共に災害時の対応や連携について協議し、協力体制を整える必要があります。

◎交流の場・通いの場

○高齢者の通いの場

身近な場所で集える場・通いの場があることで、高齢者にとっての生きがいや健康づくりに繋がりが、見守りあいの場になっていくのではないかと考えます。地域の中でお互いが楽しみながら過ごしていける通いの場（サロン）作りに取り組んでいきます。

○多世代の交流できる場

高齢者の事業だけでなく、様々な世代の人が交流できる事業や、各世代それぞれに向けた事業も必要と考えます。地域には、長く住む人もいれば新たにやり住んできた人など様々です。やはり、これからの地域づくりにおいて、全ての人が「ふれあい」「交流」していける事業にも取り組むことが、住みよい街づくりに繋がります。

◎地域の担い手づくり

○若い世代の参加者の減少、協力者の減少

子ども関係の行事においても参加が少なく、社会的背景の影響もあり保護者からの協力も得にくくなってきていると感じています。これには、共働き世帯の増加など様々な要因があると思います。しかし、取り組みを継続的に行っていくためにも協力者が必要と考えます。今後は気軽に参加してもらいやすい環境づくりや、活動の担い手づくりの検討も必要です。

☆ 地域自治協議会を知ってもらう

○地域自治協議会って何？

地域自治協議会は、地域の現状や課題に基づいてさまざまなまちづくり活動を行うほか、地域の要望を取りまとめ、市へ提言を行うなどの役割を担います。

また、地域自治協議会の活動を継続的に実施していくためには、連携・交流によって地域内の絆を深めるとともに、段階的・計画的に活動を拡大していきます。